



菊池川流域の稲作（干拓地）



菊池川流域産の米



シリーズ日本遺産 23

「菊池川流域「今昔『水稻』物語」」

米作り、二千年にわたる大地の記憶

社会教育課
文化係
☎0968 (34) 3047



菊池川 日本遺産 検索

日本有数の米どころ

大坂堂島の米相場を左右

江戸時代に貨幣経済が発展していく中で、享保15（1739）年には大坂に堂島米会所が開設されました。ここでは全国各地から年貢米が集まり、米切手を売買すること、米をお金に換えるシステムも誕生しています。堂島では、選ばれた産地の銘柄米を基準として米取引が行われました。「立物米」と呼ばれるこの基準米は、品質はもちろん、安定した供給量などを選考基準とし、売買人の投票で選定されていました。主に選ばれたのは、肥後、加賀、筑前、中国（山口）、広島産の米で、これら産地は競うようにして品質向上と安定した生産に励みました。その中でも、徹底した検査や管理で高

品質を誇った肥後米はトップクラスの評価で、菊池川流域産の米は「高瀬口と申すは一番」と言われるまでになり、全国の米相場を左右しました。明治時代になり、地租改正で米から現金を納める税制に変わっても、米作りは続けられました。近代化の中で人口増も進み、日本全体で米作りがますます盛んになっていきます。

受け継がれる米文化の歴史

戦後の高度経済成長期ごろからは、食の欧米化により国内の米の消費量が低下し、生産量の調整が始まりました。それに伴い、より一層米のおいしさが追及されるようになります。昭和40年代には良質な米づくりの推進と米の消費拡大を目指して、日本穀物検定協会が食味試験を開催するようになり、平成元年度には

「特A」のランクを設置しました。その中でも、菊池川流域を含む熊本県城北（県北）地区産ヒノヒカリは平成20年度から11年連続で「特A」の評価を獲得しています。日本有数の米どころとして歴史を積み重ねてきた菊池川流域は、今でも全国的に評価されているおいしい米の生産地です。二千年にわたる米作り文化は、日本の社会・文化そのものを形成し、現在まで継承されてきました。菊池川流域はその歴史が凝縮され、体感できる地域です。この地に残る米文化と歴史が末永く受け継がれ、発展することを願ってやみません。

平成29年9月から23回にわたり、菊池川流域の市町がリー形式で連載したシリーズ「日本遺産は今回が最終回です。ご愛読ありがとうございます。（担当：玉名市文化課）」

イベント情報

■大野下雨乞い奴踊り
玉名市岱明町大野下で古くから行われている雨乞い神事で、奴姿の数十人が天を突き、地を踏み固めて奉納します。
とき 7月28日（日）
ところ 大野下八幡宮
☎0968 (25) 1136
玉名市文化課

■住吉日吉神社川祭り・雨乞太鼓
午前中に川の平穏を願う「川祭り」を、午後からは降雨を願う「雨乞太鼓」を奉納し、1年間の豊作を祈願します。雨や川などの自然と向き合いながら営まれてきた民俗行事です。
とき 7月21日（日）
ところ 住吉日吉神社
☎0968 (25) 7232
菊池市生涯学習課

町立病院からのお知らせ

和水町立病院 医療福祉連携室 入院中から安心して退院できるお手伝い

和水町立病院には、地域の病院や介護施設、ケアマネジャー、福祉担当者、外来や入院患者の医療・介護の相談窓口として医療福祉連携室があります。

医療福祉連携室には、看護師1人、社会福祉士1人がおり、具体的に次のことを行っています。

- ・介護保険、医療福祉制度利用の相談
- ・退院後に自宅で生活する準備の相談、調整
- ・施設入所のための情報提供、連絡調整
- ・転院のための連絡調整

退院支援は、患者さんとその家族の意向を確認しながら行います。

連携室は、病気やけがで通院、入院している患者さんや、それを支える家族が安心して住み慣れた地域で生活できるように、医師、看護師、理学療法士、栄養士などの院内の専門スタッフと協力し、一丸となって入院中から退院後まで、その人の生活を支援します。

また、患者さんの生活を支える人たち（家族、ケアマネジャー、在宅サービススタッフ、施設スタッフ、かかりつけ医など）と連携し、退院後も安心して生活できる環境作りのお手伝いをしています。



医療福祉連携室の松浦看護部長(左)と竹崎相談員(右)

私たちがお手伝いします。

ご相談などありましたら、医療福祉連携室にご連絡ください。

問い合わせ先 和水町立病院 医療福祉連携室 ☎0968・86・3105